

台湾バイオマス協会とMOU締結

RPF・SRF事業の発展へ

日本RPF工業会

(一社)日本RPF工業会は2月20日、台湾生質
業会(三輪陽通会長) 能技術發展協会(台湾



MOU調印式の様子

バイオマス協会)との間に、協力合意書(MOU)を締結した。両会は2023年から交流を開始しており、双方の課題やRPF・SRF普及に向けた立場や想いが一致したことから、今回のMOU締結に至ったという。

今回のMOUの目的は▽日本・台湾の両国間においてRPFを含むバイオマス燃料の情報交換のプラットフォームを構築し、定期的な交流を行う▽相互に開催するイベント等への講師やオブザーバーの派遣を行う▽両国のバイオマスエネルギー政策を推進するための意見交換を実施し、国内外の関係団体や規制当局との共同ワークを行う▽将来的に共同で課題研究テーマを設定・研究活動を模索し、両国のRPFを含むSRF事業の発展に寄与する—となっている。

調印式には三輪会長や日本台湾交流会台北事務所の服部崇副代表、(公財)産業廃棄物処理事業振興財団の岩田元一専務理事を含む代表団が参加。台湾側は台湾バイオマス協会の千昌平理事長や台湾政府環境部、経済部の担当者などが出席した。

台湾でのSRF製造の流れとしては、排出事業者が廃棄物処理費用を支払い、処理業者が処理を加え有価物を製造・販売するものとなっている。日本とはほぼ同様。SRFの性状としてはフラフ燃料に近いものとなっており、製紙メーカーやセメントメーカー等から需要があるという。

調印式翌日には現地のSRF製造工場(達清環保企業)とバイオマス発電所(大園汽電共生)を見学した。工場は大型で最新鋭のものを備えている一方で、台湾国内では焼却処分されているものも多く、廃棄されている資源をいかに回収し、活用していくかということが課題になっている。

両会は今後も交流を行いながら、さらなる関係構築を進めるとともに、技術交流を通じてRPF・SRFの価値向上を推進していくとしている。